

MICE施設利用条件

はじめに

「催事開催フローチャート」から、開催予定の催事がA・Bのいずれに該当するかご確認ください。

各催事の考え方

A 「大声での歓声・声援等がないことを前提としうるもの」に該当するもの

B 「大声での歓声・声援等が想定されるもの」に該当するもの

※イベント中（休憩時間やイベント前後を含む。）の食事を伴うものについては、Bとして取り扱いますが、添付③の条件がすべて担保される場合は、Aとして取り扱うことが可能です。

※全国的な移動を伴うイベント又はイベント参加者が1,000人を超えるようなイベントについては、事前に県に相談が必要です。

利用条件A【8/1（日）～8/29（日）】

1 利用時間

開催時間21時まで

2 最大利用人数を超えないこと

- ・最大利用人数は「5,000人」または「収容人数100%以内」の少ない方とする（具体的な人数は別紙1のとおり）。
- ・最大利用人数は、来場者だけでなく、主催者側の人数も含める。
- ・最大利用人数は、同時に利用する人数とする。

3 主催者、来場者全員に手指消毒などの感染防止対策を徹底すること

4 主催者、来場者全員のマスク着用率100%を担保すること

マスクを持参していない者がいた場合は、主催者側でマスクを配布すること

5 発熱や体調不良のある場合の入場制限・来場防止策を講じること

6 感染者が発生した場合の拡大防止を目的に、利用者全員の氏名・連絡先の把握や、接触確認アプリ（COCOA）のダウンロード促進等を行うこと

※アプリのQRコードを入口に掲示すること等による具体的な促進措置の導入

7 大声を出さないことの担保を取ることに

出す者がいた場合、個別に注意、対応等ができるよう体制を整備すること

8 来場者の間隔を保つよう、入場者の整理を行い、密集を回避すること

9 可能な限り出入口の扉を開放するなど、こまめに換気を行うこと

10 利用中は、人と人との間隔を空け、接触しないよう確実な措置を講じること

11 催物前後における交通機関の分散利用の注意喚起を行うこと

12 感染拡大防止のため、利用後に会場・使用備品の消毒作業を行うこと（主催者負担）

13 飲食を伴う場合、飲食における感染防止策を徹底すること

※利用人数は、催事の内容によって、収容人数100%で利用できないことがあります。

※上記の利用条件は、対象期間中であっても、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって変更する場合があります。

利用条件B【8/1（日）～8/29（日）】

1 利用時間

開催時間 21時まで

2 最大利用人数を超えないこと

- ・最大利用人数は、「5,000人」または「収容人数50%」の少ない方とする（具体的な人数は別紙2のとおり）。
- ・最大利用人数は、来場者だけでなく、主催者側の人数も含める。
- ・最大利用人数は、同時に利用する人数とする。

3 主催者、来場者全員に手指消毒などの感染防止対策を徹底すること

4 主催者、来場者全員のマスク着用を義務付けること（マスク着用率100%） マスクを持参していない者がいた場合は、主催者側でマスクを配布すること

5 発熱や体調不良のある場合の入場制限・来場防止策を講じること

6 感染者が発生した場合の拡大防止を目的に、利用者全員の氏名・連絡先の把握や、接触確認アプリ（COCOA）のダウンロード促進等を行うこと ※アプリのQRコードを入口に掲示すること等による具体的な促進措置の導入

7 大声を出す者がいた場合、個別に注意、対応等ができるよう体制を整備すること

8 来場者の間隔を保つよう、入場者の整理を行い、密集を回避すること

9 可能な限り出入口の扉を開放するなど、こまめに換気を行うこと

10 利用中は、人と人との間隔を空け、接触しないよう確実な措置を講じること

11 催物前後における交通機関の分散利用の注意喚起を行うこと

12 感染拡大防止のため、利用後に会場・使用備品の消毒作業を行うこと（主催者負担）

※利用人数は、催事の内容により、収容人数50%以上で開催することが可能な場合（同一グループ5人以内の座席間隔は設けない等）があります。

一方で、内容により、収容人数50%で利用できないことがあります。

※上記の利用条件は、対象期間中であっても、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって変更する場合があります。

別紙 1

利用条件 A 最大利用人数（8/1～8/29）

①福岡国際会議場（メインホール以外）

室名	スクール形式		シアター形式	
	収容人数	最大利用人数	収容人数	最大利用人数
国際会議室 501	264 人	264 人	420 人	420 人
中会議室 502～503 (1 室利用)	75 人	75 人	128 人	128 人
中会議室 502+503 (2 室一体利用)	195 人	195 人	304 人	304 人
小会議室 504～505 (1 室利用)	27 人	27 人	45 人	45 人
小会議室 504+505 (2 室一体利用)	63 人	63 人	110 人	110 人
小会議室 506	18 人	18 人	45 人	45 人
小会議室 401～406 (1 室利用)	36 人	36 人	70 人	70 人
小会議室 401+402, 402+403, 404+405, 405+406 (2 室一体利用)	96 人	96 人	144 人	144 人
小会議室 401+402+403, 404+405+406 (3 室一体利用)	156 人	156 人	216 人	216 人
小会議室 407	30 人	30 人	48 人	48 人
中会議室 409～414 (1 室利用)	75 人	75 人	128 人	128 人
中会議室 409+410, 411+412, 413+414 (2 室一体利用)	195 人	195 人	304 人	304 人
多目的ホール（全面）	882 人	882 人	1,536 人	1,536 人
多目的ホール（2分割） 201+202	330 人	330 人	594 人	594 人
多目的ホール（2分割） 203+204	396 人	396 人	726 人	726 人
多目的ホール（4分割） 201～202	165 人	165 人	270 人	270 人
多目的ホール（4分割） 203～204	198 人	198 人	330 人	330 人

②福岡国際会議場（メインホール）

室名	収容人数	最大利用人数
メインホール	1,000人	1,000人
メインホール+多目的ホール	3,000人	3,000人

③マリンメッセ福岡A館

室名	収容人数	最大利用人数
多目的展示室	10,000人	5,000人

④マリンメッセ福岡B館

室名	収容人数	最大利用人数
展示室	6,000人	5,000人

⑤福岡国際センター

室名	収容人数	最大利用人数
展示ホール	5,000人	5,000人

別紙 2

利用条件 B 最大利用人数 (8/1 ~ 8/29)

①福岡国際会議場 (メインホール以外)

室名	スクール形式		シアター形式	
	収容人数	最大利用人数	収容人数	最大利用人数
国際会議室 501	264 人	132 人	420 人	210 人
中会議室 502~503 (1 室利用)	75 人	37 人	128 人	64 人
中会議室 502+503 (2 室一体利用)	195 人	97 人	304 人	152 人
小会議室 504~505 (1 室利用)	27 人	13 人	45 人	22 人
小会議室 504+505 (2 室一体利用)	63 人	31 人	110 人	55 人
小会議室 506	18 人	9 人	45 人	22 人
小会議室 401~406 (1 室利用)	36 人	18 人	70 人	35 人
小会議室 401+402, 402+403, 404+405, 405+406 (2 室一体利用)	96 人	48 人	144 人	72 人
小会議室 401+402+403, 404+405+406 (3 室一体利用)	156 人	78 人	216 人	108 人
小会議室 407	30 人	15 人	48 人	24 人
中会議室 409~414 (1 室利用)	75 人	37 人	128 人	64 人
中会議室 409+410, 411+412, 413+414 (2 室一体利用)	195 人	97 人	304 人	152 人
多目的ホール (全面)	882 人	441 人	1,536 人	768 人
多目的ホール (2 分割) 201+202	330 人	165 人	594 人	297 人
多目的ホール (2 分割) 203+204	396 人	198 人	726 人	363 人
多目的ホール (4 分割) 201~202	165 人	82 人	270 人	135 人
多目的ホール (4 分割) 203~204	198 人	99 人	330 人	165 人

②福岡国際会議場（メインホール）

室名	収容人数	最大利用人数
メインホール	1,000人	500人
メインホール+多目的ホール	3,000人	1,500人

③マリンメッセ福岡A館

室名	収容人数	最大利用人数
多目的展示室	10,000人	5,000人

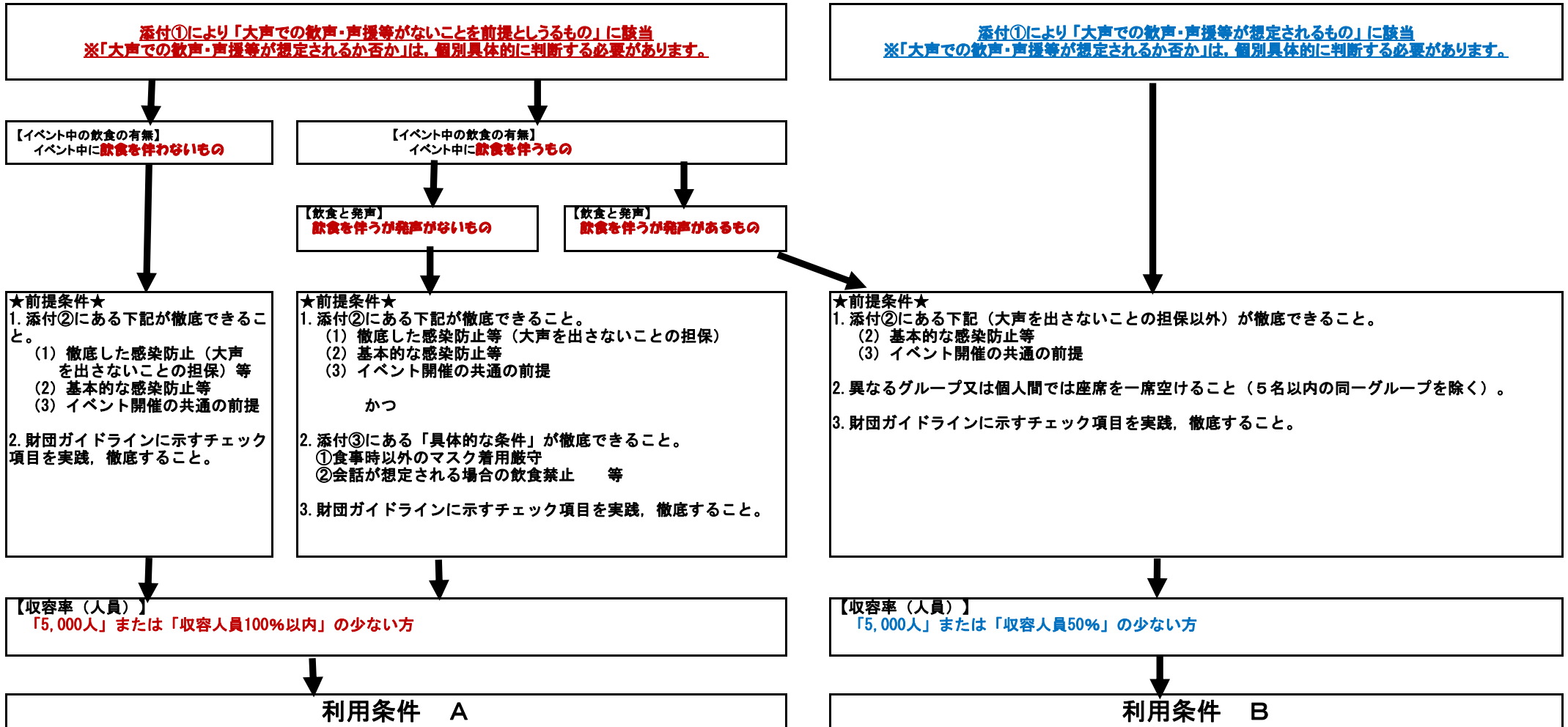
④マリンメッセ福岡B館

室名	収容人数	最大利用人数
展示室	6,000人	3,000人

⑤福岡国際センター

室名	収容人数	最大利用人数
展示ホール	5,000人	2,500人

催事開催フローチャート



各種イベント例

添付①

各種イベントにおける大声での歓声・声援等がないことを前提としうる／想定されるものの例

<p>大声での歓声・声援等がないことを 前提としうるものの例</p>	<p>大声での歓声・声援等が 想定されるものの例</p>
<p>音楽</p>	<p>音楽</p>
<p>クラシック音楽（交響曲、管弦楽曲、協奏曲、室内楽曲、器楽曲、声楽曲等）、歌劇、楽劇、合唱、ジャズ、吹奏楽、民族音楽、歌謡曲のコンサート 等</p>	<p>ロックコンサート・ポップコンサート 等</p>
<p>演劇等</p>	<p>スポーツイベント</p>
<p>現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル、読み聞かせ、手話パフォーマンス 等</p>	<p>サッカー、野球、大相撲、運動会 等</p>
<p>舞踊</p>	<p>公演</p>
<p>バレエ、現代舞踊、民族舞踊 等</p>	<p>キャラクターショー、親子会公演 等</p>
<p>伝統芸能</p>	<p>注意事項</p> <p>イベント中（休憩時間やイベント前後を含む。）の食事を伴うものについては「大声での歓声・声援等が想定されるもの」として取り扱いますが、添付③の条件がすべて担保される場合は、「大声での歓声・声援等がないことを前提としうるもの」として取り扱うことが可能です。</p>
<p>雅楽、能楽、文学・人形浄瑠璃、歌舞伎、組踊、邦踊 等</p>	
<p>芸能・演芸</p>	
<p>講談、落語、浪曲、漫談、漫才、奇術 等</p>	
<p>公演・式典</p>	
<p>各種講演会、説明会、ワークショップ、各種教室、行政主催イベント、タウンミーティング、入学式・卒業式、成人式、入社式 等</p>	
<p>展示会</p>	
<p>各種展示会、商談会、各種ショー 等</p>	
<p>その他</p>	
<p>各種会議、試験 等</p>	

(注)・上記は例示であり、実際のイベントが上のいずれに該当するかについては、大声での歓声・声援等が想定されるか否かを個別具体的に判断します。

イベント開催時の必要な感染防止策①

添付②

(1) 徹底した感染防止等 (収容率50%を超える催物を開催するための前提)

①	マスク常時着用の担保	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>マスク着用状況を確認し、個別に注意等を行い、マスクの常時着用を求める。</u> * マスクを持参していない者がいた場合は主催者側で配布・販売を行い、マスク着用100%を担保。
②	大声を出さないことの担保	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>大声を出す者がいた場合、個別に注意等ができるもの。</u> * 隣席の者との日常会話程度は可 (マスクの着用が前提) * 演者が歌唱等を行う場合、舞台から観客まで一定の距離を確保 (最低2m)

(2) 基本的な感染防止等

③	①～②の奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・①～②は、イベントの性質に応じて可能な限り実行 (ガイドラインで定める) * マスク着用状況が確認でき、着用していない場合は個別に注意等を行うこと * 大声を出す者がいた場合等、個別に注意等を行うこと (例: スポーツイベント等ではラッパ等の鳴り物を禁止すること等)
④	手洗	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめな手洗の奨励
⑤	消毒	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者側による施設内 (出入口、トイレ、ウイルスが付着した可能性のある場所等) のこまめな消毒、消毒液の設置、手指消毒
⑥	換気	<ul style="list-style-type: none"> ・法令等を遵守した空調設備の設置、こまめな換気
⑦	密集の回避	<ul style="list-style-type: none"> ・入退場時の密集回避 (時間差入退場等)、待合場所等の密集回避 * 必要に応じ、人員の配置、導線の確保等の体制を構築するとともに、入場口・トイレ・物販等の密集が回避できない場合はそのキャパシティに応じ、収容人数を制限
⑧	身体的距離の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・大声を伴う可能性のあるイベントでは隣席との身体的距離の確保。具体的には、同一の観客グループ間(5名以内に限る。)では座席を空けず、グループ間は1席 (立席の場合1m) 空ける。 ・演者が発声する場合には、舞台から観客の間隔を2m確保 ・混雑時の身体的距離を確保した誘導、密にならない程度の間隔 (最低限人と人とが触れ合わない程度の間隔)

イベント開催時の必要な感染防止策②

添付②

(2) 基本的な感染防止等 (続き)		
⑨	飲食の制限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食用に感染防止策を行ったエリア以外での飲食の制限 ・ 休憩時間中及びイベント前後の食事等による感染防止の徹底 ・ 過度な飲酒の自粛 ・ 収容率が50%を超える場合、飲食可能エリア以外（例：観客席等での食事）は原則自粛（発声がないことを前提に、飲食時以外のマスク着用担保、会話が想定される場合の飲食禁止、十分な換気等、一定要件を満たす場合に限り、食事可。）
⑩	参加者の制限	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入場時の検温、入場を断った際の払い戻し措置 *ただし、発熱者・有症状者の入場は断る等のルールをイベント開催前に明確に規定し、当該規定を十分周知している場合は払い戻し不要。
⑪	参加者の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能な限り事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握 ・ 接触確認アプリ（COCOA）や各地域の通知サービスの奨励 *アプリのQRコードを入口に提示すること等による具体的な促進措置の導入
⑫	演者の行動管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有症状者は出演・練習を控える ・ 演者・選手等と観客が催物前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じる。 ・ 合唱等、声を発出する演者間での感染リスクへの対処
⑬	催物前後の行動管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント前後の感染防止の注意喚起 *可能な限り、予約システム、デジタル技術等の活用により分散利用を促進
⑭	ガイドライン遵守の旨の公表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主催者が、業種別ガイドラインに従った取組を行う旨、HPで公表
(3) イベント開催の共通の前提		
⑮	入退場やエリア内の行動管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域的なこと等により、入退場や区域内の行動管理ができないものは開催を慎重に検討 *来場者の区画を限定、管理した花火大会などは可。具体的には、①身体的距離の確保、②密集の回避、③飲食制限、④大声禁止、⑤催物前後の行動管理、⑥連絡先の把握等を担保することが求められる。
⑯	地域の感染状況に応じた対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模イベントは、事前に収容率制限等も含めて福岡県と相談 ・ 地域の感染状況の変化があった場合は柔軟に対応

飲食を伴うものの発声がないものにおける感染防止策

添付③

具体的な条件（感染防止策）		
①	飲食時以外のマスク着用 厳守	<ul style="list-style-type: none"> ・入場時に着用を確認し、必要に応じマスクの配布、販売を実施すること ・イベント前に飲食時以外のマスク着用徹底を動画上映またはアナウンス等で周知すること ・イベント中の適切な監視体制を構築し、確実なマスク着用を求めること ・着用状況を踏まえ、必要に応じ一層の周知を図ること
②	会話が想定される場合の 飲食禁止	<ul style="list-style-type: none"> ・会話が想定される場面での飲食禁止（例：イベント前後等） ・その他、上記の要件に照らし、会話の有無を判断し、会話があり得る場面では飲食禁止を徹底
③	連絡先の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り事前予約制、あるいは入場時に連絡先の把握 ・接触確認アプリ(COCoA)や各地域の通知サービスの導入に向けた具体的措置の徹底 ※アプリのQRコードを入口に掲示すること等
④	食事時間の短縮	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間の飲食が想定される場合は、マスクを外す時間をなるべく短くするため、食事時間短縮のための措置を講ずるよう努めること